

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	幼保連携型認定こども園ミナバもくせいのもり
施設所在地	東京都昭島市
法人名	社会福祉法人多摩育児会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

『動植物』

<テーマの設定理由>

当園は緑豊かな東京都の郊外に位置しております。開園し、3年目の幼保連携型認定こども園です。昨年度も園の特色である果樹園での活動と、烏骨鶏や川魚等の生き物の飼育を通して、動植物に興味関心を広げてきました。今年度も園の特色である身近な園環境の中で動植物と出会い、探求する心を育み、深めるため、このテーマの設定としました。

2. 活動スケジュール

- ・10月21日（火）かぶの種まき
- ・11月7日（金）庭師の竹本さんと花壇作り
- ・12月 4日（木）間引き
- ・2月18日（水）収穫
- ・2月19日（木）調理保育

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・果樹園に「花壇」を作る為、乃庭さんに講師を依頼し丸太等の準備をお願いした。
子どもたちへの事前導入として、「花壇」を作ることを説明
- ・かぶの種購入
- ・プランター準備
- ・「おおきなかぶ」の絵本読み聞かせとかぶへの興味・関心を持って発表会練習開始
- ・日々のかぶの世話

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・花壇づくりは1グループ30分の設定で3グループで活動を行った。
- ・丸太を「花壇」の場所まで、転がす、ロープで引っ張るなどのやり方で子どもたちが運んだ。
- ・運んだ丸太を、事前に掘ってあった溝に転がして入れた。深さが足りない、デコボコしている場所は自分たちで掘って平らにした。
- ・ダブルスコップを使って、丸太を立てていれる場所を子どもも一緒に掘った。
- ・カブの栽培は種まき後は日々、交代で水をあげたり、観察を行った。また、間引きや収穫後は調理して食べる経験もした。
- ・カブの栽培から発表会の「おおきなかぶ」の劇へとつながった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・持ち上げる事が難しい重い丸太も、運び方を工夫したり道具を使うと運べることを経験することができた。
- ・「たのしい!」「はこべた!」「これをもっていく?」など自分たちで作業ができることを喜び、意欲的に作業をしていた。
- ・初めて見る道具に興味を示し、乃庭さんと一緒に道具に触れながら作業をしていた。
- ・かぶの種を蒔いた後、プランターを子どもたちが毎日行き来して目に入る場所に置いた。
- ・毎日の水やりを一人ずつ当番で行い、全員が”お世話”ができるよう配慮した。
- ・途中、間引きを行い、その意味に触れることができた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

普段自分たちが活動している場所に、自分たちの力で「花壇」を作る経験ができたことが、果樹園へのより深い愛着に繋がったと思う。何もなかったところに「花壇」ができることで、そこにある草花がより際立ち、子どもたちの興味や関心も深まって行くことが実感できた。一人では運ぶことができない大きな丸太もやり方や道具によって運ぶことが出来るという経験が子どもたちにとってとてもいい刺激になったと思う。

カブの芽が出始めたときの子どもたちの反応がとてもよく、水やりも積極的に、楽しみながら行うことができて、より愛情が深まっていく様子が見られた。実際に収穫したかぶは、子どもたちにとっては想像よりも小さく、「おおきくならなかったね」という声も多数聞かれたが、自分たちで育てて、収穫して調理保育をしたときには、かぶの葉も一緒に食べることができ、全員が「おいしい」「もっとたべたい」と完食することができた。また、その様子を聞いた保護者が普段なら葉っぱの部分など絶対食べないと言っていたので、今後も植物の成長を見守り、愛情を持って育てて美味しくいただく活動をたくさん行って行きたいと思った。